

遊びの中には 学びがいっぱい!

～職員室から～

～見た目じゃないのです～

私のチョコレート味のリクエストに応じて、茶色の画用紙を丸く切り始めたAちゃん。真ん中はどうするのかな?と思ったら、円の中央に向かって惜しげもなくチョンと切って、そこから丸く切り落としていました。切ったところはセロテープを貼っています。見た目に派手さはありませんが、この“自分で考える”“それをやってみる”“自分なりの達成感を味わう”ことが尊いのです。教師が本物らしく見えるドーナツを提示することは簡単ですが、大人が見て「すごい」ものではなく、子ども自身が遊びの中で体感している学びが大切なのです。

豊かな感性と表現

思考力の芽生え

園長松本です。

年少ひよこ組の保育室に行ってみると、ハサミで紙や廃材を切って自分なりになにやら作っています。随分扱いも上手になっています。すると、一人の子が「ドーナツ作る！何味がいいですか？」と私に話しかけてきました。

お店屋さんをすることになり、半分に折ってから切ると真ん中に穴ができることを先生から教えてもらいました。



いろいろ試しているうちにへビのようになったドーナツ(ハハ)

カップの中でお花紙を細かく切って「ヨーグルトだよ！」という子の発想が、周りに広がりました。



様々な素材や道具の特徴、表現の仕方などに気付き、自分なりに表しています。また、考えたり予想したり、友達考えに触れて自分の遊びに取り入れたりしています。教師は、そのような姿を十分認めたり発達に応じてヒントを出したりして、「楽しい」とどまらない学びにつなげます。